

R-GIROの活動報告

Project Theme 第二次世界大戦による在外日本人の強制退去・収容・送還と戦後日本の社会再建に関する研究

環太平洋地域の第二次世界大戦体験から見える現代グローバル社会の諸課題

戦中・戦後の日本人の強制移動体験を捉え直し現代のグローバル社会に新たな視点を示します。

本プロジェクトは、第二次世界大戦を契機として環太平洋地域に住んでいた日本人・日系人が経験した強制退去・収容・送還に焦点を当て、環太平洋地域全域にまたがるグローバルな視座を近代日本の体験に新たに組み入れると共に、現代のグローバル社会における日本のあり方を問い直すことを目指しています。

太平洋戦争勃発時、北米、南米、太平洋島嶼、オーストラリア、東アジアなどの環太平洋地域には、350万人もの日本人が暮らしていました。この数は、当時の本土人口の5%に及びます。そこには、交通・情報のネットワークが築かれ、在外日本人の「生活世界」と呼べるものが成立していました。在外日本人の戦争体験の核心は、彼らが環太平洋地域に形成していた「生活世界」もろとも、根こそぎ排除されたところにあります。北米では強制収容と強制移住が行われ、南米では迫害の他、一部人口が北米へ強制的に移動させられました。また太平洋の島々でも、強制退去の上にオーストラリアへ移送・収容が強要されました。加えてアジアからの戦後の引き揚げも含め、在外日本人の多くがさまざまな形で住む場所を追われたのです。

こうした大規模かつ長距離に及ぶ日本人人口の全面的な排除に関しては、20世紀に世界で起こったさまざまな民族移動の問題との類似点を見出すことができます。また、21世紀がグローバル社会と言われるようになっても続発する難民や民族浄化の問題にも通底するものがあります。すなわち環太平洋地域の全体を見通して在外日本人・日系人の移動を総合的に捉えることで、現代のグローバル社会の諸問題に新たな視座を提供できると私たちは考えています。

環太平洋地域全域を網羅することで戦後の日本と各国の様相を包括的に理解できます。

このプロジェクトでは、アメリカ史、日本史、地理学、社会学、文化人類学といった多様なディシプリンを横断し、学際的な研究を推進しています。それぞれアプローチも研究手法も異なる個別研究をベースとしながらも、互いに接点を意識しながら研究を設計することで、これまでの個別研究では見出せなかった新しい知見を浮き彫りにしたいと考えています。

とりわけ本プロジェクトのユニークな点は、北米・南米、太平洋諸島嶼、オーストラリアなどにおける日本人の「移住」研究と、中国、朝鮮

半島、南洋群島における「植民地」研究とを包括するものであることです。植民地および日本の「勢力圏」における、日本人だけを対象とした「日本帝国」という枠組みだけでは、当時の多様で複雑な移動の実態や在外日本人の生活世界を捉え切ることはできません。環太平洋地域全域を統合することによってこそ、戦後の日本、そして環太平洋地域がいかに再形成されたかを理解できると確信しています。

プロジェクト全体に通底する「アメリカ」という視点を見出しました。

プロジェクトがスタートして約2年の間、毎月1度、プロジェクトメンバーが研究成果を持ち寄り、活発なディスカッションを通してそれぞれの研究に磨きをかけてきました。

大きな成果は、環太平洋地域における日本人の強制移動と、戦後の環太平洋世界の再構築を遂行した「主体」としてアメリカ合衆国を見出したことです。これは、戦後の世界におけるアメリカの重要性を考えれば当たり前のことかもしれませんが、とはいえ、これまでの在外日本人の強制退去・収容・送還の研究では、アメリカ合衆国の役割が十分に評価されてきたとは言えません。目を向けるべきは、環太平洋地域に住んでい

た350万人もの日本人が一掃され、日本人が今の狭い領土に戻されたこと、海外に残った日本人は、「日系人」という別種の認識のカテゴリーを与えられ、日本から切り離されたこと、日本を含む環太平洋地域の国々の多くが、アメリカ合衆国の強い影響の下で再出発したこと、そしてこれらがすべて連関したできごとだったということです。

例えば戦後、中国から引き揚げた日本人は、百数十万人に達します。当時の混乱した状況下で、それほど多くの日本人を船に乗せ、輸送するのは、容易ではありませんでした。複数の利害が交錯する中、日本人の移送のアレンジをしたのは、アメリカを中心とする連合国軍でした。

中国に関してのみならず、プロジェクトのいずれの研究グループにおいても、日本人が排除されるさまざまな過程で、アメリカ合衆国政府が「意識的」に関与したという仮説のもとに作業を進めることが、有効だと考えています。

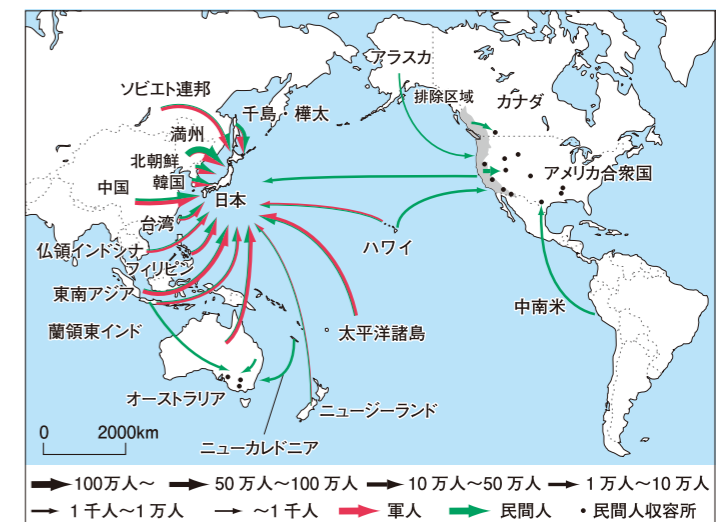
今後は、アメリカ合衆国の関与に焦点を当て、戦後の日本、そして環太平洋地域全域の全体像を解明していくつもりです。



米山 裕 教授

Hiroshi Yoneyama

第二次世界大戦を契機とした在外日本人・日系人の強制移動の概略図。おもな強制移動の経路と強制収容所を示した。(飯塚隆藤 作図)



- 参考文献 / 1 立命館大学国際言語文化研究所『立命館言語文化研究』<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/re/k-rsc/lcs/kiyou.html> 21巻4号、20巻1号、17巻4号、17巻1号、16巻4号に特集を掲載 2 米山裕・河原典史編著『日系人の経験と国際移動：在外日本人・移民の近現代史』人文書院、2007年
- 連絡先 / 立命館大学 衣笠キャンパス 電話：(外線) 075-465-8224